輝いてます

暮らしの保健室「あひるの家」代表

# ひと

## 日月 博子（たちもり ひろこ）さん

### ここに行けば誰かに会える

一人ひとりと丁寧に向き合う日月さん

「保健室が、まちの中にもあったらいいと思うんです」。そう熱心に語るのは、暮らしの保健室「あひるの家」代表の日月博子さん（64歳・南町2丁目）。昨年4月から、専門家に健康や介護のさまざまな相談ができる場所「あひるの家」を開催しています。

蕨市で26年間、訪問看護師として働いてきた日月さんは、多くの人が自分の健康や家族の介護の悩みについて一人で抱え込み、多様化するサービスから適切な支援を選び取れていない現状にもどかしさを感じていました。時間や制度にとらわれず、一人ひとりから丁寧に話を聞き、悩んでいる人たちの力になりたいという思いが募り、定年退職を機に、看護師としてともに働いてきた林まき子（はやしまきこ）さんと、あひるの家をスタートさせます。

現在、三つの公民館で定期開催しているあひるの家には、相談のある人が訪れるだけでなく、血圧測定や脳トレなど、皆さん自由に過ごしています。自分の体と向き合ううちに自然と不安や悩みに気がつくことも。利用者からの相談には、看護師として培った知識を生かし、最適解を探します。「気軽に話せて的確なアドバイスができるのが、あひるの家の強み」と日月さん。利用者も親身になって話を聞いてもらい、不安な気持ちが和らいだと笑顔を見せてくれました。

日月さんの献身的な姿に共感し、医師やケアマネージャーなどの専門家仲間も活動に協力してくれるようになり、つながりの輪は着実に広がっています。今後の目標は、困っている人と専門家をつなぐハブになること。今月24日には東公民館で「ミニ・健康まつり」を開催予定です（お知らせ版1ページ）。「ここに行けば誰かに会える」を合言葉に、これからもほっと心が休まる場所を目指して、活動は続きます。

---

今月の河鍋暁斎記念美術館

## 天才絵師の作品 蕨にあり

—No.98—

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

暁斎筆「月に二羽の杜鵑」
紙本墨画　軸装

杜鵑（ほととぎす）は夏の訪れと共に渡来し、独特な鳴き声をすることから、古来和歌や俳諧などに詠まれました。清少納言（せいしょうなごん）は鶯（うぐいす）より杜鵑を好んだことで知られており、『枕草子』の中で、夜鳴くことをその理由に挙げています。本図は満月と、羽ばたく二羽の杜鵑が描かれています。嘴（くちばし）を開けた右の一羽からは、甲高（かんだか）いさえずりが聞こえてくるようです。暁斎は夜空の中で鳴く杜鵑を、墨の濃淡のみにて描き、古典の中で愛された杜鵑の姿を余すところなく表現しています。

**河鍋暁斎記念美術館　開催中**

企画展「暁斎・暁翠　いきもの美術館」展
同時開催　特別展「第38回かえる」展

開　館＝午前10時～午後４時　ところ＝南町４-36-４
休　館＝火・木曜日、26日～末日
入館料＝一般600円　高校生・大学生500円
　　小・中学生300円　65歳以上500円
　　※65歳以上は年齢の分かる物、
　　学生は学生証をご提示ください
詳　細＝同館（☎441・9780）

詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

yosai Kawanabe

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治９年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勧業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。

河鍋 暁斎（かわなべ きょうさい）
天保２年（1831）
～明治22年（1889）

---

広報紙に載っている写真を希望者に差し上げます（一部を除く）　秘書広報課広報広聴係までご連絡ください